

今に生かされている

その大切さを

未来に生きる子供たちへ



科学技術の進歩は、いつの間にか、私たちから謙虚さやいたわりの情を奪い取っていました。むしろ、科学の力さえあれば、どんなことでも可能になるという考えが頭をもたげ、自らの生きる土台を顧みることをついぞ怠ってきた、と言った方がよいのかも知れません。そんな私たちに今、地球という大きな生命体は、自然環境保全という難問をつきつけています。それは、人間関係においても同様です。子供という純真な鏡は、今日の歪んだ風潮を悲しいまでに映し出して、大人たちの生き方に警鐘を鳴らしています。

人間は自分で生きているのではなく、大きな存在によって生かされている――

人間は決して孤立しては生きていられず、みんなが助け合いながら生きている――環境破壊も子供の心の荒廃も、こうした人間の本源的な思想をいつしか見失い、誰しもが自分中心主義に陥って生きていたことを反省し、自己の「生」を真剣に見つめ直す契機とするために、与えられた課題であるような気がします。

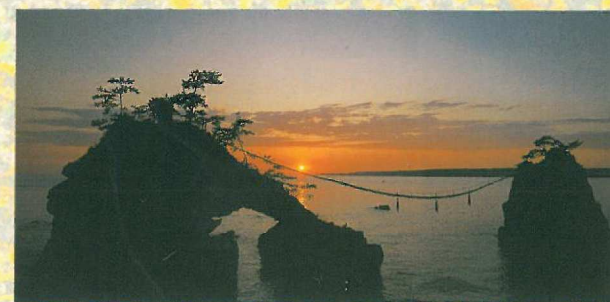
いつの時代にも、そして科学技術がいくら進歩したとしても、人間が生きてゆく上で決して忘れてはならない心構え……。

最愛の人は最期の別れに、「このことだけは絶対に忘れてはいけないよ」とそつと囁いていたはずだ。





永代祭祀の祭壇



氏子のしおり 第44号 平成12年6月1日初版 発行／神社本庁

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目1番2号 電話03-3379-8011

<http://www.jinjahoncho.or.jp>